

FUSO REPORT

第69期 中間報告書

扶桑化学工業株式会社

2025年4月1日から2025年9月30日まで

証券コード 4368

TOP INTERVIEW

トップインタビュー

平素は格別のご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。



代表取締役社長
杉田 真一

代表取締役会長
藤岡 実佐子

Q1 当上期の実績についてお聞かせください。

当中間連結会計期間の売上高は377億5百万円（前年同期比8.5%増、29億4千9百万円増）、営業利益は97億4千6百万円（同19.7%増、16億1百万円増）、経常利益は98億7百万円（同23.4%増、18億5千8百万円増）、親会社株主に帰属する中間純利益は68億7千9百万円（同22.7%増、12億7千1百万円増）となりました。

売上高、営業利益ともに半期決算としては、過去最高の業績となり、電子材料事業の売上高はライフサイエンス事業をはじめて上回りました。海外拠点との連携強化や製品管理・販売体制の効率化を促進し、現地生産や技術サポートを活用した市場拡大に取組んだ結果、海外売上比率は4%上昇し54%となりました。生産面では安全操業・安定生産の継続に加え、新設備の稼働や増設による生産能力の向上と、顧客からの認証取得に注力しました。また、中長期的なビジネス継続、従業員の就業環境改善を見据え、大阪工場の耐震補強工事や新事務所棟、鹿島事業所の分析棟の新設工事に着手しました。さらに研究開発では、技術力を基盤とした新たな高性能製品の創出、多様な分野での事業展開を進めています。



京都事業所の新規製造設備の稼働に伴う減価償却費や立ち上げ費用が増加しましたが、売上増加に伴う生産拡大による効果が寄与し、前中間連結会計期間を大幅に上回る増収増益となりました。

Q2 リンゴ酸の海外販売状況についてお聞かせください。

鹿島事業所と大阪工場の2拠点における製造能力を最大限に発揮するために、海外でのビジネスを積極的に増やしています。コロナ禍後の反動で落ち込んでいた海外販売も2023年度を底にシェアを奪回し徐々に成果が出てきています。迅速な価格対応、提案型開発営業など施策の積み上げが実を結び、2021年度に達成した過去最高に迫る販売物量を目指しており、新規の取引国への輸出も増えてきています。価格調整をしながらのシェアアップでしたが、物量が伸びてくると操業度も上がり、製造コストへのメリットも出てきますので、製販バランスを見ながらの世界戦略になります。今後も「スピード」「コスト」「クオリティ」を武器に、顧客との関係を強固にし、着実にシェアを拡大させてまいります。

Q3 今回業績を上方修正した背景を教えてください。

AI用途を中心に半導体市場向けの超高純度コロイダルシリカの販売が好調に推移しました。

また想定の為替レート($=140)よりも円安に推移したことで円換算後の売上高や営業利益が増加し、売上、利益面とも前回公表した業績予想を上回りました。

当中間期の業績の進捗に加え、半導体市場の拡大が当初の想定を大幅に上回って進展しており、コロイダルシリカの販売増加が継続することが見込まれます。更に想定為替レートを145円に変更し、通期の業績予想を上方修正しました。

Q4 最後に株主様へのメッセージをお願いいたします。

ここ数年手がけていた大型の設備投資がすべて完成し、これから拡大が予想される需要に対応できる体制が整いました。今後も成長の糧となる設備投資・研究開発には積極的な投資を続け、その投資に見合った利益をしっかりと稼いでまいります。上期は当初計画を上回る業績を達成いたしましたので、配当金も増配させて頂いております。

今年度はより高いレベルに計画を修正しておりますが、達成に向けて全社一丸となって取り組んでまいります。株主の皆様には引き続き、より一層のご理解とご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。



事業部長に聞く

電子材料事業部長 取締役
椙本 源樹

Q1 前年度から業績が好調です。この事業の製品と、私たちの暮らしとの関係について教えてください。

当事業の主力製品である「超高純度コロイダルシリカ」は、半導体製造に欠かせない研磨工程で使用される「スラリー(研磨剤)」の原料です。近年、生成AIの普及をはじめ、私たちの生活のあらゆる場面でデジタル化が加速しています。こうした流れの中で、半導体市場も昨年から回復基調にあり、当社の業績も好調に推移しています。

最先端の半導体製造では、「超高純度コロイダルシリカ」が不可欠です。この製品がなければ、半導体本来の性能が発揮されず、製造効率や歩留まりにも大きく影響します。当社の製品は、目には見えないナノレベルの領域で、最新テクノロジーの進化や電子デバイスの性能向上を支えているのです。スマートフォンや家電、さらにはAI技術の裏側で、目立たずとも確実に、当社の技術が皆さまの便利で快適な生活に貢献しています。

Q2 今後も快進撃を続けるためのポイントはどこにありますか?

今後の半導体は、プロセスのさらなる複雑化に加え、より高性能・高密度化が求められるようになります。当社では、微細化・多層化・高性能化といった技術的課題に対応できる製品開発を進めており、技術革新に伴う需要の拡大にも大きな期待を寄せています。中長期的な事業成長を見据え、高品質な製品を安定的に供給するための設備投資も継続的に検討しています。また、利益率の高い製品構成への転換や、戦略的な価格設定を通じて、償却費などのコスト負担を吸収できる体制づくりにも取り組んでいます。こうした取り組みを通じて、当事業を持続的に成長させ、未来へとしっかりとつないでいきたいと考えています。

SEGMENT INFORMATION

事業概況

ライフサイエンス事業
電子材料および機能性化学品事業

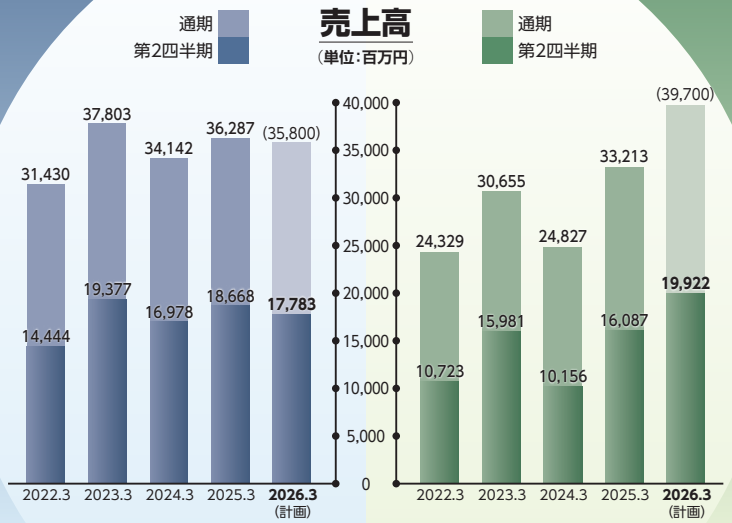


47.2%
177億8千3百万円

売上高の比率（連結）

52.8%
199億2千2百万円





ライフサイエンス事業全体の業績は、外部顧客に対する売上高が177億8千3百万円（前年同期比4.7%減、8億8千5百万円減）、営業利益は25億1千6百万円（同8.2%減、2億2千5百万円減）となりました。

国内市場では食品・飲料用途等、果実酸類の需要は堅調に推移しましたが、医薬品や日用品マーケットの需要が軟化しました。海外市場ではリンゴ酸のシェアアップに取り組んだ結果、アジアを中心に販売数量が増加した一方、競争の激化により販売単価は低下しました。更に、円高に伴う輸出および在外子会社の売上高減少の影響も加わり、セグメント売上高は前中間連結会計期間を下回りました。営業利益は、前期の鹿島事業所の定期修繕の長期化によるコストアップ要因はなくなったものの、大阪工場の耐震補強工事に伴う稼働停止、販売価格の低下、円高に伴う在外子会社の利益減少の影響もあり、前中間連結会計期間を下回り、減収減益となりました。

電子材料および機能性化学品事業全体の業績は、外部顧客に対する売上高が199億2千2百万円（前年同期比23.8%増、38億3千4百万円増）、営業利益は84億2千5百万円（同29.3%増、19億9百万円増）となりました。

半導体市場はAI用途を中心に需要は堅調に推移しました。主力製品である超高純度コロイダルシリカは、堅調な需要に対して安定供給に努めた結果、販売数量が増加しました。売上高は、円高の影響による減少はありましたが、販売数量増加により、前中間連結会計期間を上回りました。営業利益は、京都事業所の新規製造設備の稼働に伴う減価償却費や立ち上げ費用が増加しましたが、売上増加に伴う生産拡大による効果が寄与し、前中間連結会計期間を上回り増収増益となりました。

TOPICS 1 鹿島事業所
超高純度コロイダルシリカ（Quartron®）Ⅱ期工事完了





鹿島事業所の超高純度コロイダルシリカⅡ期工事が完成し、9月に竣工式を行いました。本設備稼働により、鹿島事業所Ⅰ期設備および、京都事業所の設備増設と合わせて、生産能力は2022年度比で約1.5倍に拡大します。

超高純度コロイダルシリカは、半導体製造プロセスに欠かせない素材で、近年の半導体市場の拡大に伴い需要が増大しています。当社はこの需要に応えるため、新たな生産能力を活かして、より強固な供給体制を構築しました。安定的に高品質な製品を提供し、信頼される素材メーカーとしての責務を果たしてまいります。

TOPICS 2 神栖市 企業版ふるさと納税

今年度、鹿島事業所が所在する茨城県神栖市の「コミュニティバス事業」へ、企業版ふるさと納税制度を活用した寄付を行いました。寄付はバスの運営費に充てられ、当社ロゴをあしらったラッピングバスが、今後3年間にわたり市内を走行する予定です。

このバスは地域住民の皆さまの移動手段として活躍するとともに、当社の認知度向上にも寄与するものと考えております。

今後も地域の皆さまと共に歩み、地域社会への貢献活動に積極的に取り組んでまいります。



TOPICS 3 WEBサイト 事業部ページをリニューアル

製品の検索性を高め、お客様の利便性向上と新たなビジネス機会の創出を目的に、ライフサイエンス事業部および電子材料事業部のページを刷新いたしました。

新デザインでは両事業部のページ構成を統一し、製品情報にアクセスしやすくなりました。また事業内容をより深くご理解いただけるコラムコーナーを新設しています。

商品特性がよく分かる内容となっておりますので、ぜひご覧ください。



●ライフサイエンス
Life Science



●電子材料および機能性化学品
Electronic Materials & Functional Chemicals

FINANCIAL STATEMENTS

連結財務諸表 要旨

連結貸借対照表

（単位：百万円）

科　目	当中間連結会計期間末（2025年9月30日）	前連結会計年度末（2025年3月31日）
資産の部		
流動資産	**70,108**	**67,052**
現金及び預金	33,464	31,295
受取手形及び売掛金	17,296	16,046
商品及び製品	14,409	14,058
仕掛品	656	675
原材料及び貯蔵品	3,409	3,419
その他	872	1,556
固定資産	**74,341**	**74,449**
有形固定資産	**67,053**	**66,982**
建物及び構築物（純額）	18,913	19,435
機械装置及び運搬具（純額）	17,719	18,491
土地	8,432	8,433
建設仮勘定	21,045	19,567
その他（純額）	941	1,055
無形固定資産	**3,751**	**4,006**
投資その他の資産	**3,536**	**3,460**
投資有価証券	805	714
長期前払費用	458	540
繰延税金資産	1,593	1,720
その他	679	484
資産合計	**144,449**	**141,502**

科　目	当中間連結会計期間末（2025年9月30日）	前連結会計年度末（2025年3月31日）
負債の部		
流動負債	**17,719**	**18,489**
支払手形及び買掛金	2,968	3,073
1年内返済予定の長期借入金	4,000	3,100
未払金	2,606	2,625
設備関係未払金	3,726	6,207
未払法人税等	2,714	1,847
その他	1,703	1,635
固定負債	**16,941**	**18,963**
長期借入金	14,900	16,900
繰延税金負債	304	303
退職給付に係る負債	1,442	1,463
その他	294	296
負債合計	**34,661**	**37,453**
純資産の部		
株主資本	**105,059**	**99,503**
資本金	4,334	4,334
資本剰余金	4,820	4,820
利益剰余金	96,927	91,405
自己株式	△1,022	△1,057
その他の包括利益累計額	**4,728**	**4,545**
純資産合計	**109,788**	**104,048**
負債純資産合計	**144,449**	**141,502**

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結損益計算書

（単位：百万円）

科　目	当中間連結会計期間（2025年4月 1日から 2025年9月30日まで）	前中間連結会計期間（2024年4月 1日から 2024年9月30日まで）
売上高	37,705	34,756
売上原価	22,874	21,840
売上総利益	14,831	12,915
販売費及び一般管理費	5,084	4,770
営業利益	9,746	8,145
営業外収益	237	181
営業外費用	176	378
経常利益	9,807	7,948
特別利益	8	81
特別損失	21	21
税金等調整前中間純利益	9,794	8,008
法人税等	2,914	2,400
中間純利益	6,879	5,608
親会社株主に帰属する中間純利益	6,879	5,608

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

科　目	当中間連結会計期間（2025年4月 1日から 2025年9月30日まで）	前中間連結会計期間（2024年4月 1日から 2024年9月30日まで）
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,598	14,566
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,827	△12,778
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,448	△1,168
現金及び現金同等物に係る換算差額	34	△331
現金及び現金同等物の増減額	2,357	287
現金及び現金同等物の期首残高	29,237	29,483
現金及び現金同等物の中間期末残高	31,594	29,771

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

Point 1　（連結貸借対照表）

当中間連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ29億4千7百万円増加し、1,444億4千9百万円となりました。これは主に、現金及び預金、建設仮勘定が増加したためです。

負債は、前連結会計年度末に比べ27億9千1百万円減少し、346億6千1百万円となりました。これは主に、設備関係未払金が減少したためです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ57億3千9百万円増加し、1,097億8千8百万円となりました。これは主に、利益剰余金が増加したためです。

Point 2　（連結損益計算書）

当中間連結会計期間において、両事業部の主要原材料および仕入品価格は概ね安定的に推移しました。

半導体市場の堅調な需要を背景に、売上高・営業利益ともに前年同期を大きく上回り、販売数量の増加、新規設備の稼働率向上、業務効率化が利益拡大に寄与しました。

一方、円高の影響により、ライフサイエンス事業では海外子会社の円換算売上高が減少しました。

国内における果実酸の需要には用途別で差が見られたものの、海外販売の強化により、リンゴ酸の市場シェアは着実に拡大しています。

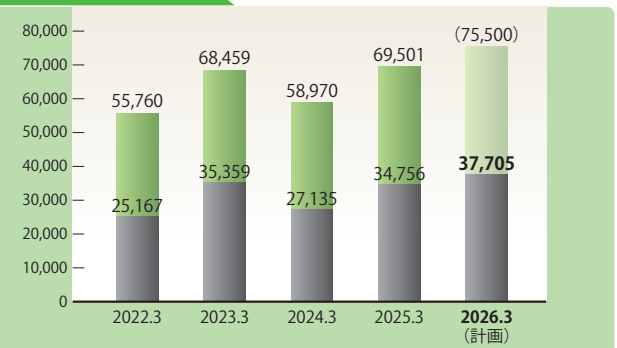
Point 3　（連結キャッシュ・フロー計算書）

当中間連結会計期間における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、税金等調整前中間純利益および減価償却費の発生により取得した資金を、有形固定資産の取得、長期借入金の返済、法人税等の支払、配当金の支払に充てた結果、前連結会計年度末に比べ23億5千7百万円増加し、315億9千4百万円となりました。

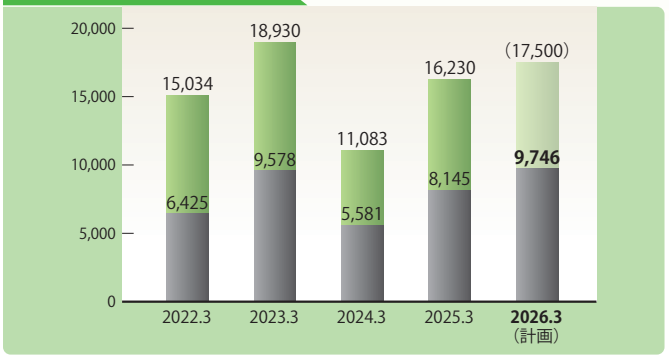
FINANCIAL HIGHLIGHT

業績ハイライト連結

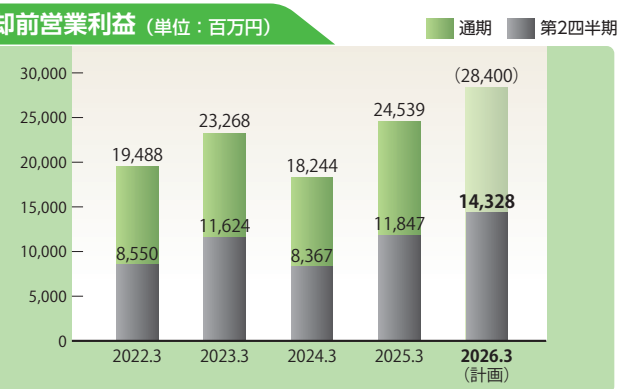
売上高（単位：百万円）



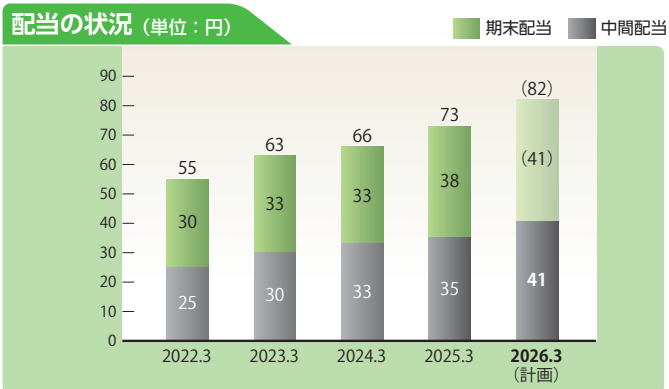
営業利益（単位：百万円）



償却前営業利益（単位：百万円）



配当の状況（単位：円）



第2四半期と通期における業績の推移

	2022年3月期		2023年3月期		2024年3月期		2025年3月期		2026年3月期	
	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期(計画)
売上高(百万円)	25,167	55,760	35,359	68,459	27,135	58,970	34,756	69,501	**37,705**	75,500
営業利益(百万円)	6,425	15,034	9,578	18,930	5,581	11,083	8,145	16,230	**9,746**	17,500
経常利益(百万円)	6,482	15,509	10,757	19,740	6,245	11,883	7,948	16,561	**9,807**	17,600
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	4,488	10,890	7,516	14,129	4,287	8,343	5,608	11,622	**6,879**	12,200
償却前営業利益(百万円)	8,550	19,488	11,624	23,268	8,367	18,244	11,847	24,539	**14,328**	28,400
1株当たり当期純利益(円)	126.59	308.08	213.26	400.90	121.64	236.70	159.09	329.68	**195.12**	364.04

■株式の状況

（2025年9月30日現在）

●発行可能株式総数：95,000,000株

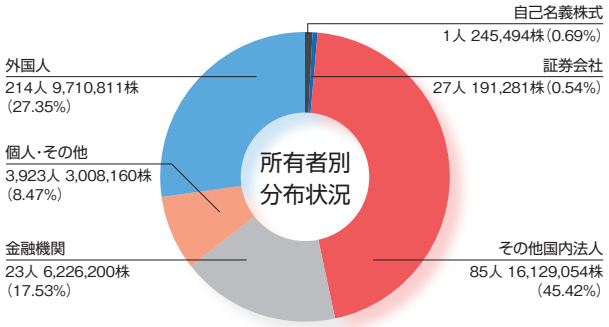
●発行済株式の総数：35,511,000株

（自己株式が 245,494 株含まれています。）

●株主数　　：4,273名

■株主の分布

（2025年9月30日現在）



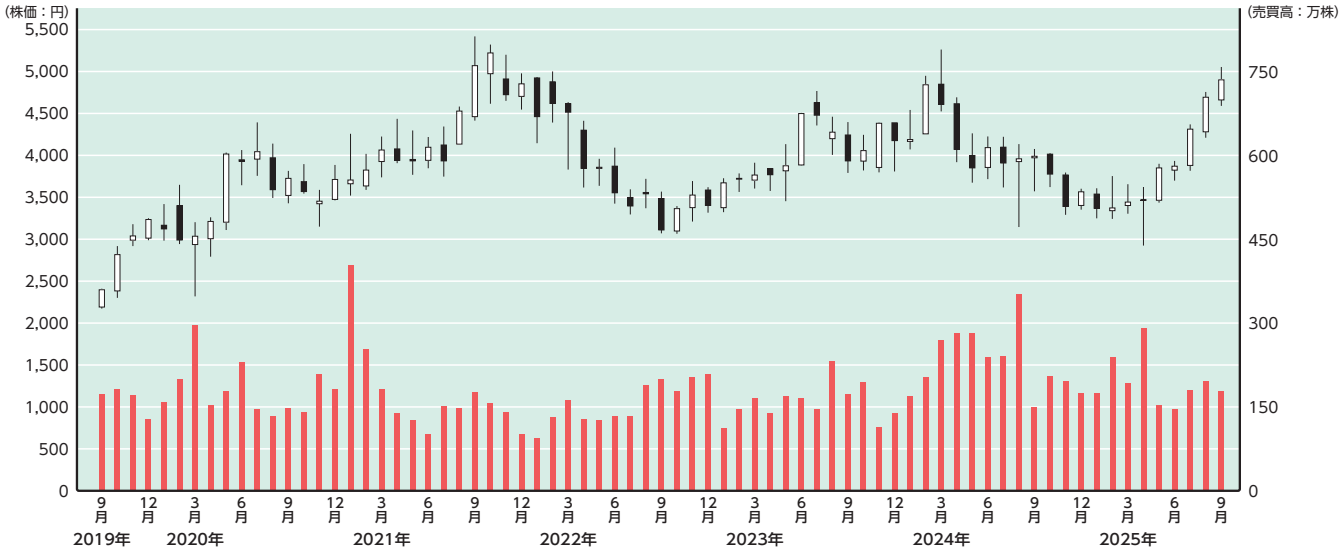
■大株主

（2025年9月30日現在）

株主名	持株数	持株比率
株式会社壽世堂	5,596,265	15.87%
帝國製薬株式会社	3,328,000	9.44%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	3,167,400	8.98%
株式会社薫風舎	2,621,665	7.43%
GIC PRIVATE LIMITED-C	1,535,800	4.35%
大阪中小企業投資育成株式会社	1,490,625	4.23%
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	1,407,300	3.99%
有限会社帝産	1,375,000	3.90%
THE BANK OF NEW YORK MELLON　140042	1,288,492	3.65%
BNYM AS AGT/CLTS 10 PERCENT	1,176,029	3.33%

・持株比率は、自己株式数を控除して計算しています。

■株価の推移



CORPORATE PROFILE

会社概要

会社概要

■商　　号	**扶桑化学工業株式会社**	
■創　　業	1952年(昭和27年)	
■設　　立	1957年6月24日(昭和32年)	
■資 本 金	43億3,404万7,500円	
■本　　社	〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜三丁目5番29号 (日本生命淀屋橋ビル 16階) TEL.(06)6203-4771(代)	
■東京本社	東京都中央区日本橋小舟町6番6号(小倉ビル7階)	
■事 業 所	**新大阪事業所**	大阪府大阪市淀川区新高二丁目6番6号
	京都事業所	
	京都第一工場	京都府福知山市長田野町一丁目5番地
	京都第二工場	京都府福知山市長田野町二丁目8番地
	鹿島事業所	茨城県神栖市東和田20番地
	神戸研究所	兵庫県神戸市中央区港島南町七丁目1番16号 (神戸医療機器開発センター207)
	東京研究所	神奈川県川崎市高津区坂戸三丁目2番1号 (かながわサイエンスパークR&D棟 A206～A209)
	大 阪 工 場	大阪府堺市西区築港新町三丁27番地10
■主要子会社	**青島扶桑精製加工有限公司**(中国)	
	PMP Fermentation Products, Inc.(アメリカ)	
	FUSO(THAILAND) CO., LTD.(タイ)	

役　員

(2025年10月1日現在)

■取締役

代表取締役会長	**藤岡 実佐子**	
代表取締役社長	**杉田 真一**	
専務取締役 (ライフサイエンス事業部長)	**政氏 晴生**	
常務取締役 (経営企画部長 兼 事業開発部長)	**藤岡 篤**	
取締役 (電子材料事業部長)	**椙本 源樹**	
取締役 (管理本部長)	**伊藤 裕之**	
取締役 (生産本部長)	**宮本 典和**	
取締役	**百嶋 計**	(社外・独立)
取締役 監査等委員	**平田 文明**	(社外・独立)
取締役 監査等委員	**江黒 早耶香**	(社外・独立)
取締役 監査等委員	**武内 敬**	(社外・独立)

■執行役員

上席執行役員 (管理副本部長 兼 総務部長)	**三宅 雅彦**
執行役員 (電子材料事業部 電子材料本部長)	**山川 恭弘**
執行役員 (生産副本部長 兼 安全環境統括部長 兼 鹿島生産部長 兼 鹿島事業所長)	**田中 寛之**
執行役員 (ライフサイエンス事業部 営業開発本部長 兼 営業開発部長 兼 国際部長)	**二宮 主税**





STOCKHOLDER MEMO

株主メモ

■事業年度	毎年4月1日から翌年3月末日まで
■定時株主総会	毎年6月開催
■基準日	定時株主総会　毎年3月31日 期末配当金　毎年3月31日 中間配当金　毎年9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
■株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
■株主名簿管理人 事務取扱場所	大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
（郵便物送付先）	〒168-0063　東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
（電話照会先）	0120-782-031［受付時間 9:00～17:00（土・日・祝日および12/31～1/3を除く）］
（インターネットホームページURL）	https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。

証券会社の口座のご利用がない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」（株式会社証券保管振替機構）を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座（特別口座といいます）を開設しています。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先にお願いいたします。

■公告の方法	電子公告とする〈https://fusokk.co.jp〉
■上場金融商品取引所	東証プライム

【利益配分に関する基本方針及び配当】

剰余金の処分につきましては、長期にわたり安定的に株主の皆様に報いるため、累進配当の考え方を採用し、企業価値の向上につとめてまいります。内部留保金につきましては、将来の事業成長のための設備投資および研究開発に充当していきます。

当期の中間配当金につきましては、当期の業績を踏まえ、1株につき41円とさせていただきます。期末配当金は1株当たり41円を予定しており、当期の年間配当金につきましては、1株につき82円を予定しています。



FUSO 扶桑化学工業株式会社

https://fusokk.co.jp